

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年06月04日

計画の名称	北秋田市における良好な水環境の実現（重点計画）												
計画の期間	平成30年度～令和02年度（3年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	北秋田市												
計画の目標	生活排水処理構想に基づいた下水道整備を推進することにより、公共用水域の保全と快適で衛生的な生活環境を創造し、良好な水環境の実現を目指す。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,825	A	1,825	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	H31末	H32末
1	北秋田市の下水道処理人口普及率を51.8%（H30当初）から55.6%（H32末）に増加させる。			
	下水道処理人口普及率	52%	55%	56%
	下水道を利用できる人口（人）/総人口（人）×100			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	管渠(汚水)	新設	鷹巣処理区実施設計(未普及)	実施設計・地質調査委託	北秋田市						46	-	
		地域種別:過疎																	
	A07-002	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	管渠(汚水)	新設	鷹巣処理区管渠整備(未普及)	汚水管 150~250 L=7.7km	北秋田市						788	-	
		地域種別:過疎																	
	A07-003	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	終末処理場	新設	鷹巣浄化センター(未普及)	水処理設備増設工事	北秋田市						833	-	
		地域種別:過疎																	
	A07-004	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	管渠(汚水)	新設	米内沢処理区実施設計(未普及)	施設統廃合 実施設計委託	北秋田市						19	-	
		地域種別:過疎																	
	A07-005	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	管渠(汚水)	新設	米内沢処理区管渠整備(未普及)	施設統廃合 接続管渠 L=3.7km	北秋田市						124	-	
		地域種別:過疎																	
	A07-006	下水道	一般	北秋田市	直接	北秋田市	-	-	施設計画の見直し	効率的事業計画策定	北秋田市						15	-	
		地域種別:過疎																	
											小計						1,825		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
北秋田市下水道事業担当課により、事業実施状況・指標の達成状況の確認および評価を実施。	令和3年6月
	公表の方法
	北秋田市のホームページにて記載する。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	下水道の整備を行った結果、下水道処理人口普及率を51.8%(H30当初)から53.2%に増加させ、市民の快適な暮らしを実現し、良好な水環境の創造に寄与することができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
事業の成果として、令和2年度末現在で、下水道人口普及率の目標値55.6%に対し、実績が53.2%で目標値を達成することができなかった。今後は、主要な幹線が整備されたことから、水洗化に伴う面整備工事を整備することにより、早期の普及率向上が見込まれる。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	56%
	最終実績値	53%
		市街地と市街地を結ぶ非住宅地域の幹線整備の実施のため、予算配分を多くしたことから、面整備工事の進捗が遅れ、最終目標値55.6%に2.4%及ばなかった。